

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員が利用者に押し付けるのではなく、利用者の気持ちを尊重し、本人、家族が安心できるよう取り組んでいる。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	ミーティングの際など職員間で理念の共有をしている。そして実践に向けて取り組んでいる。また毎月開催している職員会議で日々のケアについて話し合いもしている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	事業所の広報誌に理念を掲載し、家族、地域（行政含む）に配布し、利用者の方が住み慣れた地域で安心して生活が出来るように努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近隣での交流会に参加したりするなど交流に努めている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内での清掃活動等に参加したり、運営推進会議に参加していただくなど交流をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員が研修に参加し、地域の認知症ケアの拠点となるよう取り組んでいる。(民生委員の見学、勉強会等)認知症実践リーダー研修の実習受け入れ施設として実習生の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義をすべての職員が理解をしており利用者の生活の質の向上や事業所全体の質の向上のため真剣に取り組んでいる。また、評価を基に会議をし、改善に向けた取り組みをしている。運営推進会議での報告も行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において評価やその後の取り組み等を報告し、参加者からの意見、質問要望を受けサービスの改善に取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は運営推進会議以外にもグループホーム連絡協議会や県や市の研修の講師として連携を図り、地域福祉のサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修において権利擁護の担当をしていることもあり職員の権利に対する意識は高い。成年後見活動を行っている職員や、制度を利用している利用者やこれから必要となる方もいる。事業や制度の活用に積極的に支援をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加するなど職員が学んだり理解できるよう職員会議、ミーティングの際に報告し合い、虐待防止に向けた取り組みをするとともに、声掛け等日々の中にも権利を侵害する場面がなくなるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の役割を明確に説明し、利用者（家族を含む）の立場になって将来のことも含めて、疑問が合えばそれに対して十分な説明をし、納得していただくように取り組んでいる。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の会話の中で、利用者に意見や要望を出してもらい、利用者本位の運営を心がけている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書発送時に、毎月の預かり金明細や日々の様子を書いた手紙のお手紙、写真等を発送している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見を書いていただくノートを置き、家族が面会時に自由に書けるようにしている。公の機関についても同様にわかりやすいところに掲示をしている。ノートよりも口頭（電話を含む）やメールのほうが多く、迅速に対応をし運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会を月1回行い意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、職員と意見交換する気時間を持っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	余裕を持った人員を確保しており、勤務シフト上も無理の無いよう勤務シフトをつくっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設の事業所がないので異動の心配がない。また運営者は馴染みの関係がケアには不可欠というのを理解しているため人材（人財・人在）育成、確保のため正規職員の比率を高くし、安定したケアの提供、ホームの運営に当たっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が全職員を対象に定期的に内部研修を開催している。法人外の研修にも職員に合った研修を受講させるなど全職員に機会を与えている。職員会議の場で研修報告を行い情報の共有も図っている。また、資格取得に向けたフォローも行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡会が発足し、管理者は副会長を務めているので他事業所との交流の機会が多い。それ以前にも利用者の方を含めた交流会も開催するなどし、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスの軽減を図るために個別に相談をすることが出来るように管理者が時間を作っている。運営者は職員が心身ともに健康でなければよいケアを提供することが出来ないことを理解をしているため余裕のある人員配置をとり、休憩時間の確保や有給の取りやすい環境をつくっている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	福祉の仕事にやりがいを感じる事が小さなことで喜びを感じることが出来るように気づきを促したり資格取得への支援を行っている。また安心して仕事が継続できるように育児休暇の取得や、健康診断の実施などにも配慮している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望が合ったときは管理者と職員で訪問をして生活の様子や不安などを聞くようにしている。ホームの見学もいつでもできるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談にこられる方に対して、管理者職員で不安を乗り覗けるように時間を取り対応をしている。そのうえでその方に応じたアドバイスや施設紹介等を行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を置こうない、その方に応じた施設の紹介や地域包括支援センターへ引き継いでいる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用する本人の気持ちを最優先し、本人が納得してから利用をしていただくようにしている。(利用に納得するまで1ヶ月を要したケースあり) その間、本人、家族にホームの見学(お茶飲み等)を通して安心してご利用いただけるようにしている。またスタッフが出向いたりするなどの対応によりホームでの生活への移行の支援をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として尊厳ある対応を基本としている。そのうえで、支援する側、される側という気持ちを持たずお互いが協働しながら和やかな生活が出来るような場面作りを心がけている。生活の知恵やわざ、生活文化の大切さや、生まれた故郷の懐かしさなどを教えてもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら利用者の日々の出来事や、築きの情報共有に努め、利用者を支えるため家族とともに考え、同じような思い出支援をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症という病気により家族関係、人間関係が悪化しているケースが多い。入居時に認知症とは、、、という話を含め認知症の理解を促すとともに在宅での認知症介護から開放することにより今までどおりの生活を取り戻し、本人との関係の再構築できるように支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には快く迎え、お茶等を一緒に飲んでいただくなどしていただいている。お帰りの際には一緒に玄関まで行きお礼の挨拶をし、今後も気持ちよくおいでいただけるようにしている。また、電話での連絡を含めつながりが途切れないように模している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	挨拶や会話など、相手に伝わっていないときには、職員がさりげなく伝えるなどし雰囲気がやわらかくなるようにしている。職員が調整役となって支援をしている。また、利用者の相性を把握し、孤立したりトラブルとならないようにスタッフを配置するなどの配慮をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も相談に対応している。(病院入院後の相談や他事業所への不満、苦情等)また、近隣のお住まいの方は気軽に立ち寄っていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり、生活の中で把握するように努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったりしている。またセンター方式の活用もして本人本意での生活を考えている。	○	担当者だけでなく、諸君前任が希望や意向などを把握理解、共有して、利用者の立場の生活が出来るように心がけていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から今までの生活の様子をプライバシーに配慮しながら情報を得ている。	○	センター方式の今まで以上に活用し、担当以外の職員も情報共有をしホーム全体として取り組んでいく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作を感じ取ることにより、できないことよりもできることに注目をし日々の生活場面に生かせるように取り組んでいる。		34と同様に取り組んでいく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるよう、本人家族の希望を聞き課題となることをスタッフ全員で話し合い介護計画の作成に活かしている。	○	本人のための介護計画であるので今まで以上に本人と話し合い、意向に沿った計画を作成し実践していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は直接ケアをしているスタッフ(特に担当スタッフ)からのアセスメント(特に本人からのニーズ)を基にボトムアップして作成をしている。ご家族が来られた際に意見交換をするなどして本人、家族を交えた計画を作成するようにしている。また、本人の状況に合わせ都度変更するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	すべての職員が確認できる日誌に、食事ごとの摂取量、排泄、入浴、洗髪の有無、体調の様子、会話等が記録されている。朝礼を含め1日4~5回の引継ぎを行って情報の共有にも努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	健康面に不安があっても協力医療機関の理解協力の基看護師、スタッフが医療機関への受診や往診を行っている。スタッフ配置に余裕があるので入院時の対応や入院中の面会、病院との連絡、早期退院に向けての取り組みも行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練、運営推進会議を定期的に行い行政（消防署含む）や民生委員等の協力を得ている。	○	今まで以上に地域の方やボランティアへの協力を得ていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホーム利用前のケアマネージャとの連携を保ち、情報交換や共有に努めている。福祉用具も利用者の立場になって取り組んでいる事業所と連携をし、本人、家族が安心して満足できるようにあいだに入っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	虐待と思われる事例について地域包括支援センターと連絡を取り対応をしている。また勉強会を含め連携を取っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診、緊急時の往診や受診はホームの看護師が中心となって支援をしている。本人の意向や家族の気持ちを尊重し理解と協力を得て全職員で取り組んでいる。受信の経過は業務日誌やファイルに記録し、情報の共有にも努めている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関や専門医と連携を取りながら取り組んでいる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の理解がとてもよく、日々の受診等看護職との連携を取っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院をするときには、日々の生活状況等医療機関の情報を提供している。入院中は頻繁にお見舞いに行き主治医や担当官越しと情報交換をし、回復状況の把握に努めながら、あわせてご家族とも情報交換をしながら早期退院に向けて取り組んでいる。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては実際に家族立会いで自室で亡くなられた方もいる。それ以外でも本人や家族の希望できりぎりまでホームで過ごされ病院に入院後すぐに亡くなられた方も複数いる。取り組みのために家族や主治医との連携を図り職員も同じ方向で取り組むために情報共有もしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームとしてできること、できないことを本人ご家族にお話している。そのうえでホームでの生活を希望される場合、ご家族やかかりつけ医の協力を得て安心して終末期を過ごせるようにしている。急変時の対応もよく話し合いをし、迅速に対応が出来るようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、注意点について家族や今までのケアマネージャーと情報交換をし安心してホームで生活出来るように心がけている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に相手の立場になって考えるようにすることで尊厳を守るケアに結び付けている。個人情報を持っているホームとしての責任を常に職員に意識をさせ、情報の管理に最善の努力をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者への言葉かけや雰囲気作りにより感情が表出できるように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当然のことながらホームにはプログラムがなく利用者の希望やペースにあわせた支援をしている。また外出や買い物も希望を聞き計画を立てて対応をしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容の日を設けホーム内にある美容室にて本人の希望に合わせ散髪（カット、毛染め）を行っている。ホーム外を希望されるときには家族の協力を得て取り組んでいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の希望を聞いて献立に取り入れている。一人ひとりの力を発揮してもらえるように、美味しく食事ができるようにみんなで仕事、役割を分担して利用者、職員みんなで食事作りをしている。片付けも進んでされる方もおられ活動のひとつとなっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	色々な嗜好品を希望に合わせ準備をし、利用者の方に選んでいただけるようにしている。	○嗜好品を取り入れることにより他利用者の不満とならないように、また本人の健康状態に合わせ主治医と連携を取りながら取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンの把握や、本人に配慮した声掛けまた、トイレ誘導をすることによりオムツ外しをしたケースもある。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できる限り本人のニーズに合わせた入浴に調整をしている。(夏であれば起床後のシャワーなど)入浴を好まれない方に対して職員の都合で動いているときもある。	○	利用者の方全員に気持ちよく入浴していただけるように検討しケアにつなげていくようにする。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	リビングや玄関、中庭や外にイスやソファがあり利用者の好みや心身の状態により自由に休んだり過ごすことができる。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや畑仕事、花壇作りなど利用者の経験や力を発揮できるような場面作りを行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を手元に持っておられる利用者や外出の都度本人の希望に応じてお金を持つ人などさまざまな人がいる。希望の品も職員が頼まれて買いに行くのではなく、本人と一緒に出かけ金銭を使う場面を作るなどその人に応じた対応、支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や利用者の気分、ニーズに合わせた外出をしている。夫婦でご利用されている方については二人だけの外出の機会も多く作っている。また、毎日近くのスーパーに食材の買出しにもいっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠方への外出については利用者と相談のうえ計画を立てていっている。またご家族の協力も得ながら取り組んでいる。(夫婦でのドライブ、飲食を含めた外出など)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきを保管し、本人が自ら書かれる方もいらっしゃる。自身で電話がかけられる肩は自由にかけられ、手伝いが必要な人に対してはその人に応じた介助をしている。また、プライバシーにも配慮した支援をしている。	○	家族や友人などに電話をしやすい雰囲気作りや周囲に聞こえないような配慮を今まで以上にしていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問されたら居室はリビングなど自由に選んでいただき楽しく穏やかに過ごしていただけるよう配慮をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目を離さないで見守ることの大切さを職員が理解しており利用者の安全に気をつけ、身体拘束をする必要がないようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は不審者対策のため施錠をしているが、それ以外は鍵をかけていない。職員は鍵をかける必要を感じておらず、利用者の方が外に出られる際には状況に応じて所在確認のみ守りであったり、一緒に出るなどの対応を使い分けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	食事やお茶の時間、バイタルチェック、外出のお誘いなどさりげなく、本人のプライバシーに配慮しながら所在や様子を確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて保管すべきもの(散髪道具、刃物等)は利用者を使うときに注意が必要なものに分けて管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急救命講習の受講やスタッフの緊急連絡網の慶事、つい1回の避難訓練などを継続して行うことにより事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救命講習やAED、消火器の使い方などを定期的に訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の基に月1回の避難訓練を行っている。運営推進会議を通してホームの取り組みを伝え理解と協力を得られるように取り組んでいる。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の協力、理解、納得が得られるように、本人の状況の変化に応じて来訪時や電話で連絡をして応を決めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の状況に応じて1日3回のバイタルチェックを行っている。その他特変があれば管理者、看護師に連絡をし、状況に応じて医療機関への受診につなげている。同時に業務日誌への記録と申し送りにて職員間での情報共有をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人家族の意向を踏まえホームの看護師が薬の管理をしている。食後や眠前に利用者一人ひとりに職員が手渡しにより服薬確認をし間違いがないようにしている。調剤一覧ファイルにより薬の目的等職員が把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や水分補給、職員との生活場面における運動、腹部マッサージなどをすることで自然な排便ができるよう取り組んでいる。業務日誌においても排便の有無を記入するなどして情報共有をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの介助が必要な利用者には声かけや見守りをして清潔を保てるようにしている。	○	毎食後の口腔ケアが確実にできるように心掛けていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カリリー不足や栄養の偏り、水分不足にならないように摂取量や水分量を把握しながら献立を立てている。食事量、水分摂取量を日誌に記録し職員全体がわかるようにしている。	○	定期的に管理栄養士の専門的なアドバイスがもらえる機会を設けていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	汚物処理に使用した手袋は消毒液につけてから捨てるなどの取り決めのほか、外出から帰ったらうがいや手洗いなど基本的なことをしっかりするよう利用者、職員ともに心掛けている。		感染症に対する予防や対策など常に新しい情報や知識を取り入れていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具などは使ったらアルコール消毒を必ずするようにしている。新鮮で安全な食材を試用するため買いためをしないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者の友人、近隣の方など気軽に寄っていただいている。玄関先にはプランターなどを置き季節の花を植えている。	○	暖かい雰囲気を保てるように心掛けて、外部との関わりをもう少し深く持てるようにしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量を適切に保ったりスリッパも大きな音が出ないようなものを選び使用するなど、日常生活における些細な不快な音が溜まり利用者、職員がストレスをためないような配慮をしている。またこいのぼりを飾ったり季節の花を利用者の方自らが生けたりするなど季節を感じながら生活が出来るように取り組んでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや玄関、玄関先にベンチを置き、仲の良い利用者どうしてくつろいでいただけるスペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたタンスやテレビなどを自由に自室に持ち込んでもらっている。家族や自分の気に入った写真などを壁に飾って居心地の良い空間作りに努力をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏は体のためにもなるべく冷房を使わないように喚起をしたり自然の風を取り入れるようにしている。居室や廊下の空気を入れ替えをこまめにして心地よく過ごせるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者主体の生活が出来るように手すり等を設置している。また、利用者の方にあわせて介助をするなど思案新安全に過ごせるように取り組んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者にとってわかりにくい事、利用者の力でやっていけることを見極め状況に合わせた環境整備に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑を作り、野菜を育てたり花を植えたりして利用者が楽しみながら、趣味を活かし、自由に活動できる環境づくりをしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者と一緒に買い物に行き食材を選び、調理、盛り付け、配膳片付け等利用者に応じた役割分担で食事をしている。お茶の後などテレビを見ながら手足の運動をしたり歌を歌ったりとさりげなく生活の場面場面でコミュニケーションを図りながら身体機能維持に取り組んでいる。外に畑を作り、十差に利用者に苗を選んだり植えたりしながら収穫の喜びを分かち合っている。また雑草が伸びると自ら進んで手入れをされる。また日々の管理も積極的に取り組んでおられる。外出では花見、紅葉狩りなど季節に合わせた計画を立て自然との関わりを大切にしている。他の事業所との相互交流を図り屋内に閉じこもらないような配慮をしている。利用者の方の昔からやってこられたわざや地域の風賞、季節の行事等を取り入れ自身の役割と居場所がある生活場面がある。利用者の尊厳を大切に日々取り組んでいる。権利擁護事業についても成年後見制度や福祉サービス利用援助事業などホーム外の制度や機関と連携して取り組んでいる。